

研究・調査報告書

報告書番号	担当
369	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学
題名 (原題/訳)	
Alcohol drinking and esophageal squamous cell carcinoma with focus on light-drinkers and never-smokers: a systematic review and meta-analysis. 飲酒と食道扁平上皮癌との関連－低量飲酒者と非飲酒者に着目した系統的検討とメタ解析	
執筆者	
Islami F, Fedirko V, Tramacere I, et al.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Int J Cancer. 2011 Nov 15;129(10):2473-84.	
キーワード	
食道癌、アルコール、メタ解析、概説、扁平上皮癌	
要 旨	
目的： アルコール飲酒と食道扁平上皮癌リスクとの定量的関係は、とくに低量飲酒者、非飲酒者、および癌リスクが高いアルコール代謝酵素遺伝子多型の頻度が高いアジア人においては未解決の問題である。	
方法： この問題を解決するために少なくとも 3 段階の飲酒量と食道扁平上皮癌リスクについて研究した 40 の症例-対照試験と 13 のコホート研究を系統的検討とメタ解析を行った。	
結果： 年齢、性、喫煙で調整した研究では低量飲酒群 (1 日 12.5g 以下) の食道扁平上皮癌相対リスクと 95%信頼区間(CI)は非飲酒者に比べて 1.38 (95%CI 1.14-1.67)であった。低量飲酒群での相対リスクは他の人種に比べてアジア人でやや高かった。中等量飲酒群 (12.5～50g/日)の調整相対リスクは 2.62 (2.07-3.31)で、多量飲酒群 (50g/日以上)の調整相対リスクは 5.54 (3.92-7.28)であった。これらの相対リスクは非アジア人でやや高かった。前向き研究の結果では低量飲酒群、中等量飲酒群、多量飲酒群の相対リスクはそれぞれ 1.35 (0.92-1.98)、2.15 (1.55-2.98)、3.35 (2.06-5.46) であり、低量飲酒群はアジア人 (5 研究) を対象とした研究においてのみ有意なリスクとなったが、多の人種の研究 (3 研究) では有意ではなかった。生涯未喫煙者を対象としたとき低量飲酒群、中等量飲酒群、多量飲酒群の相対リスクはそれぞれ 0.74 (0.47-1.16)、1.54 (1.09-2.17)、3.09 (1.75-5.46)であった。	
結論： 本研究で中等量飲酒と多量飲酒が食道扁平上皮癌リスクであることを再確認し、多数の前向き研究をもとに予想リスク値を算出した。アジア人対象の研究で低量飲酒が食道扁平上皮癌と関連があることは遺伝的感受性の違いの存在を示唆した。	